

# 三内丸山通信

今年度の発掘調査は、6月9日から9月30日まで、沖館川に面した遺跡北西端で行いました。これまでに6回の調査を行っているA区に加え、A区に近接した台地縁辺をB区としました。A区からは、斜面の上から土砂や遺物を捨てた「捨て場」、掘立柱建物ものとみられるたくさんの柱



第29次調査区（上空から）

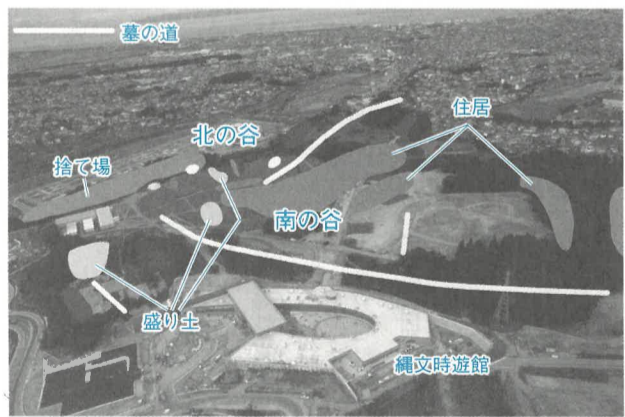
穴、集落終末期（約4000年前）の焼けた住居跡がみつかっています。今年度は焼けた住居跡のつくりや焼け落ちた様子を調べること、「捨て場」と住居跡や柱穴の関係を明らかにすることを目的に調査を行いました。

調査の結果、住居跡は同じ場所につくりかえられて

## 遺跡公開10周年記念・10年間の発掘調査から②

縄文時遊館から遺跡内へ入り、北に向かう順路の右手に「南の谷」があります。谷周辺では、10年間で5回の確認調査を行ったところ、谷をはさんだ両斜面と谷南側の平坦地（現ピクニック広場）から住居跡・掘立柱建物跡・土坑が発見され、それぞれまとまって分布していました。谷の南側には、堅穴遺構（大きく深い円形

### 「南の谷」周辺の様子 ～拡大したムラ～



最盛期のムラの様子

の穴）も分布しています。これらはほぼ、集落が最盛期を迎えた縄文時代中期中葉（今から約4500年前）のもので、「南の谷」周辺から更に南側にムラが拡大したことが確認できました。また、周辺の遺跡の調査から、美術館周辺（近野遺跡）、環状7号線をはさんだ西側の台地上などに、同時期の集落がいくつもつくりられ、この地がにぎわった様子が分かっています。

いることがわかりました。床の上には炭化した木材などが残されていました。使用していた土器などの道具がなく、片づけたうえで火を付けたようです。また、屋根材が崩れ落ちた時に木材の上に載っていた土が、その場で真っ赤に焼けていたことから、屋根に土を載せた「土屋根」の住居だった可能性があります。B区では、2棟の建物跡とみられる柱穴が確認さ



炭化した木材を残して掘り下げる焼けた住居跡の調査

れ、柱穴の1基では木柱を確認しました。B区の西端では、A区へと続く「捨て場」の端を確認しました。現地説明会は9月23日に実施し、約70人の参加者が焼失住居の床面に広がる炭化材などを見学しました。

# 第29次調査の成果

北端につくられた掘立柱建物跡と集落終末期の住居跡

#### 遺跡のご案内

##### ○開園時間

9～17時（11～3月）  
ただし、「遺跡内展示室」、「展示遺構」の公開時間は、9～16時30分

##### ○年末年始の休館・休業日

縄文時遊館・復元建物は無休  
「遺跡内展示室」と「展示遺構」、ボランティアガイド、体験工房

##### ○ボランティアガイドの定時案内

1回目は9時15分より  
その後は10時から1時間ごと  
最終は15時30分より

##### ○交通手段

青森市営バス

JR青森駅から

「運転免許センター行き」  
三内丸山遺跡前で下車

※雪道を歩きやすい靴でお越しください。



基調講演

「縄文を活かした観光の可能性」

国立民族学博物館文化資源研究センター長であり、教授の石森秀三氏が基調講演を行いました。

石森氏は、「縄文社会は美しい成熟社会であり、三内丸山遺跡は、その象徴的な場所。遺跡を訪れた人が、

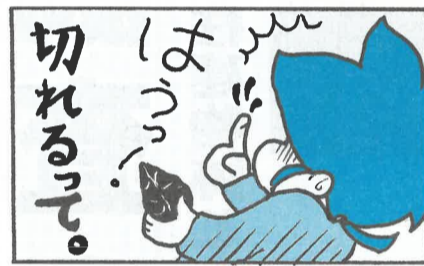
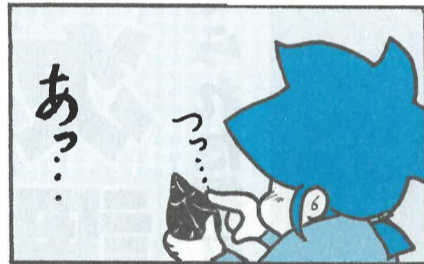
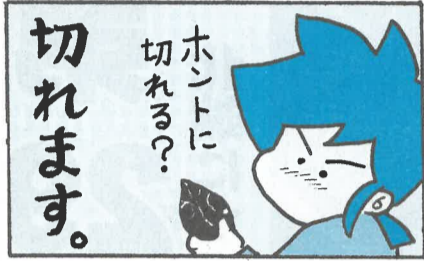
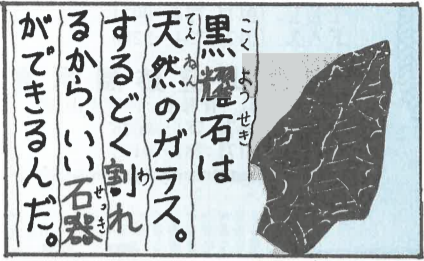


鼎談のようす（右から石森氏、小山氏、菊池氏）

サンタイムズのなかまたち



どんな石で石器をつくるの？ 丸山三太郎



「北の縄文文化回廊」って何？

北海道・北東北地域には、三内丸山遺跡を始めとする多くの縄文遺跡があり、縄文時代にも、海を越えた交流が行われてきました。北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県では、この地域を「北の縄文文化回廊」として内外にアピールし、縄文文化を核にした地域間交流などを進めています。平成16年度からスタートし、今年度は青森県が主体となって、フォーラムなどの事業を展開しています。

8月20日(土)、北海道・北東北三県(開催主体・青森県)が主催する「北の縄文文化回廊フォーラム」を、三内まほろばパーク内の縄文時遊館において開催しました。

北の縄文文化回廊フォーラム開催

鼎談

石森秀三氏(国立民族学博物館文化資源研究センター長・教授) 小山修三氏(国立民族学博物館名誉教授、吹田市博物館館長) 菊池正浩氏(NHKエンタープライズプロデューサー)

縄文文化と現代 縄文の心に学ぶ

小山氏は、「これからは観光留学や学校観光などを考えていく必要がある。」

と提案し、三内丸山遺跡ではそれが可能だと訴えました。

石森氏は、イギリスの発掘ボランティアを例に出し、「三内丸山遺跡でも制度化し、一ヶ月や二ヶ月、一緒に発掘して様々なものを見出す喜びを感じてもらえないか。」と提案されました。

また、菊池氏は、「遠くにある縄文ではなく、心の中にある縄文のように位置付けられないか。少なくとも年に何回かここにきて感じてもらう。三内丸山遺跡はそういう場にならないか。」と提案されました。

会場では、約80人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

北の縄文文化回廊を形成する代表的な遺跡を紹介し

北海道の中野A・B遺跡は、縄文時代早期(約8000年前)の大規模な集落跡です。12万平方メートルの遺跡内からは700棟以上の住居跡などが発見されています。

北の縄文文化回廊

誌上パネル展

秋田県の大湯環状列石は「日時計状組合」と呼ばれる配石が見つかっていました。縄文時代の遺跡としては、三内丸山遺跡や長野県尖石遺跡とともに全国に3例しかない国の特別史跡の指定を受けています。



大湯環状列石(秋田県)



復元された土屋根の住居跡(岩手県御所野遺跡)

ぶ、縄文時代中期後半の大規模な集落跡です。青森県の是川遺跡は、縄文時代晩期の泥炭層から色鮮やかな漆器が出土し、注目を集めています。なお、2月5日まで遺跡内の展示室において、「北の縄文文化回廊写真展」を開催しています。代表的な遺跡・遺物の数々を写真パネルによって紹介しています。ぜひご覧下さい。

雪のさんまるへは あったかーくして、お越しください。 ~よいお年を!~

